

# 秦野・八国見山の霊園建設現場

秦野市渋沢の八国見山南面区域で始まった大規模霊園建設工事で、繁殖期に入ったタカ科の「ノスリ」の営巣地周辺の樹木伐採が進められていることが分かった。霊園建設に反対する市民グループ「渋沢丘陵を考える会」（日置乃武子代表）メンバーが2月初旬に確認。現場近くではノスリが求愛行動に入っており、考える会は16日付で、工事中止を事業者に指導することを求める要求書を古谷義幸市長に提出した。

【高橋和夫】

考える会メンバーによると、霊園への進入道路が建設される同市榑窪の樹林は、ノスリの採餌場となっている。進入道路付近にはこれまでノスリが営巣していた樹木があるが、古い巣が落とされたような形跡があった



霊園建設のため移植されたエノキ（中央）＝渋沢丘陵を考える会提供

# 「ノスリ」営巣地で伐採

## 繁殖期入り求愛も

### 市民グループ 市長に指導要求書

という。求愛行動に入ったノスリが、再び営巣する可能性のある古巣が失われるような樹林伐採が行われていることは、事業者が県に提出

した林地開発許可申請の環境保全方針に反すると指摘している。また、要求書では国蝶オオムラサキの幼虫が葉を食べるエノキや、カンアオイ属オトメアオイの変種とみられるナカイカンアオイ、中村川源流域に生息するゲンシポタルなどの保護を目的に、工事工程表と自然環境保全作業計画日程の事前公開も求めた。

八国見山周辺は豊か自然が残され、県内への影響を最小限にするよう求めている。で最大級のオオムラサキの繁殖地となっている。エノキは霊園建設区域を含めて165本あり、幼虫が20匹以上越冬する5本のうち3本は進入道路の建設で移植されることになっている。今月16日に3本のうち1本の移植を確認した同会メンバーは、「エノキ3本の移植でオオムラサキの繁殖に大きな影響がでるのは必至」とし、環境



空を飛ぶノスリ

自然が残され、県内への影響を最小限にするよう求めている。